

はだの浮世絵ギャラリー

涼と華

夏の装いと暮らし

2018年 6月30日(土) ~ 8月26日(日)



歌川国貞(三代豊国) 二代歌川国貞・二代歌川広重 二代歌川国貞・豊原国周 二代歌川国貞・二代歌川広重 歌川国貞(三代豊国)
 六代目坂東三津五郎の花勝負の吉三郎 俵げんじ五十四帖 廿五 蛸 女夫源氏二十余帖 大七洗鯉 俵げんじ五十四帖 廿六 常夏 十二ヶ月之内 文月

江戸の人々は、いろいろな工夫をして暑い夏を涼しく過ごしていました。川開きや花火など、季節を感じさせる行事や衣替えを大切に、四季折々の風流を楽しみました。

ギャラリートーク(作品解説)のお知らせ

【日時】各回30分程度(内容はいずれも同じ)

6月30日(土)、7月6日(金)、20日(金)、28日(土)、8月3日(金)、11日(土) 17日(金)
 14時~ ※6月30日(土)のみ11時~、14時~

【申込】不要・無料

【会場】はだの浮世絵ギャラリー展示室内

◆開室時間 9:00~19:00(火曜日、祝日は17:00まで)

◆休室日 月曜日、7月17日(火)、7月27日(金)

◆会場 はだの浮世絵ギャラリー(秦野市立図書館2階)

住所 〒257-0015 秦野市平沢94-1(カルチャーパーク内) TEL 0463-81-7012

交通 小田急線秦野駅北口バス3番のりば《秦08系統》渋沢駅行き(日立製作所/桜土手経由)「文化会館前」下車

小田急線渋沢駅北口バス1番のりば《秦08系統》秦野駅行き(日立製作所/桜土手経由)「文化会館前」下車

◆主催 秦野市 ◆問い合わせ 生涯学習文化振興課(0463-84-2792)



展示目録

	題名	作者名	制作年代
1	吾妻美人ゑらみ 松葉屋内 喜瀬川	喜多川歌麿	寛政後期 (1789~1801年)
2	(上野不忍池納涼)	勝川春潮	天明後期 (1781~1789年)
3	浮世美人合 俄日和のせんたく	歌川国貞 (三代豊国)	弘化期 (1844年~)
4	隅田川にわか夕立	歌川国貞 (三代豊国)	安政4年4月 (1857年)
5	十二ヶ月之内 文月	歌川国貞 (三代豊国)	嘉永期 (1848年~)
6	三代目沢村田之助の「環菊」の紀之松	歌川国貞 (三代豊国)	文久元年7月 (1861年)
7	四代目中村芝翫の「イ菱」の与吉	歌川国貞 (三代豊国)	文久元年7月 (1861年)
8	四代目中村芝翫の祇園守の福松	歌川国貞 (三代豊国)	文久3年5月 (1863年)
9	二代目沢村訥升のかながしらの源平	歌川国貞 (三代豊国)	文久3年5月 (1863年)
10	六代目坂東三津五郎の花勝見の吉三郎	歌川国貞 (三代豊国)	文久3年5月 (1863年)
11	国芳模様正札附現金男 団七九郎兵衛	歌川国芳	弘化2~3年 (1845~1846年)
12	国芳模様正札附現金男 団七九郎兵衛	歌川国芳	弘化2~3年 (1845~1846年)
13	三代目市川九蔵の朝ぎり嶋蔵	豊原国周	慶応2年2月 (1866年)
14	十三代目市村羽左衛門の曙源太・三代目市川九蔵の幻長蔵	豊原国周	文久3年9月 (1863年)
15	市川団十郎演芸百番 幡隨長兵衛	豊原国周	明治31年 (1898年)
16	稽古所の賑ひ	無款	幕末
17	江戸名所之内 両国花火	歌川広重	天保6~10年頃 (1835~1839年)
18	江都名所 両国橋納涼	歌川広重	天保中期 (1834~1837年)
19	江戸名所 両国花火	歌川広重	天保6~10年頃 (1835~1839年)
20	江戸名所 両国大花火	歌川広重	天保11~13年頃 (1840~1842年)
21	江戸名所 両国橋花火	歌川広重	安政元年 (1854年)
22	佛げんじ五十四帖 廿五 螢	二代歌川国貞 二代歌川広重	元治元年9月 (1864年)
23	佛げんじ五十四帖 廿六 常夏	二代歌川国貞 二代歌川広重	元治元年9月 (1864年)
24	吾妻源氏放生会の図	歌川国貞 (三代豊国)	安政元年閏7月 (1854年)
25	鶺鴒船御遊	歌川国貞 (三代豊国)	嘉永5年8月 (1852年)
26	光氏大井川遊覧の図	落合芳幾	万延元年12月 (1860年)
27	絵巻物五十四帖 空蟬	二代歌川国貞	慶応3年1月 (1867年)
28	金龍山狂歌奉額図	二代歌川国貞	万延元年5月 (1860年)
29	江戸むらさきあつまのうつし絵 (朝顔)	歌川国貞 (三代豊国)	嘉永期 (1848年~)
30	女夫源氏二十余帖 青柳納涼 柳橋錦八・四代目市川小団 次の鬼薊清吉	二代歌川国貞 豊原国周	慶応元年 (1865年)
31	女夫源氏二十余帖 大七洗鯉 猿若街小花・河原崎権十郎 の小猿七之助	二代歌川国貞 豊原国周	慶応元年7月 (1865年)
32	めうとけんじ二十余帖 八百半打水 柳橋千代・四代目市 村家橋の半兵衛	二代歌川国貞 豊原国周	慶応元年7月 (1865年)